

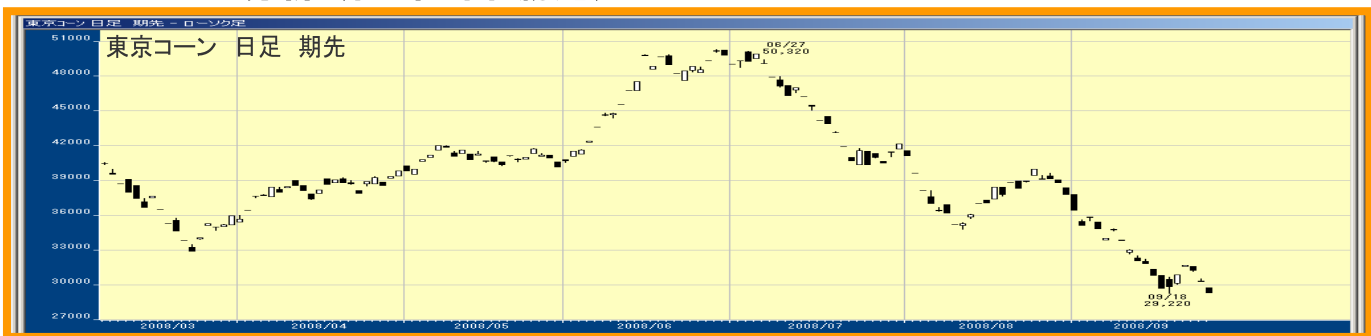
## □ アナリスト週間相場予想

	 コーン Corn	 大豆 Soybean
江崎		
西		

### Pick up News

- 〔注目スケジュール〕
- 9/29 ユーロ圏景況感指数
  - 30 ユーロ圏消費者物価速報値  
米消費者景気信頼感指数 (コンファレンス・ボード)  
S&P/ケース・シラー住宅価格指数
  - 10/1 ユーロ圏失業率、米ISM製造業景況指数
  - 2 欧州中央銀行 (ECB) 理事会、米週間新規失業保険申請件数
  - 3 米雇用統計、ISM非製造業景況指数  
米商品先物取引委員会 (CFTC) 建玉報告

## □ テクニカル分析 (担当: 西 勝之)



コーンは海上運賃の下落も相まって弱い。チャートは東京コーン先限日足である。9/18安値29220円をボトムにして反発したが、9/25の手口から変化があった。商社機関店や在京地場店が併せて数百枚の売り玉を期先に新規で入れる動きを観測。そして翌日の今日は朝から昨日と同じ市場参加者の追っかけ売りを観測、大引けのストップ安では一部買戻しも見られたが、総じて相場巧者の売り参入が目立つ展開となっている。

ポイントとなる値段は9/18安値29220円、このサポートラインを支えられるかどうかが目先のポイントとなる。来週月曜日以降確りこの値段を割り込んでしまった場合は視覚で確認できるサポートラインが見当たらない。29220円を意識して割り込んだ場合は罫線筋の行動としては買い玉は即撤退、売り参入のサインとなる事を充分肝に命じたい。

一方一般大豆はコーン程内部要因もチャートも悪くない。コーンと同じく直近安値は9/18に示現しているが、現在の値位はむしろ9/22の戻り高値のほうに近い。鞘の形もコーンは順鞘、大豆は逆鞘、コーンの売りにかませるヘッジとして一般大豆を使いたい。(9/26引け後現在)

## □ ファンダメンタル分析 (担当: 江崎 和弘)

金融市場が不安定な状態に置かれて以降、穀物相場は原油や金の値動きに左右される展開が続いている。コモディティ(商品)は一括りにされて、リスクマネーが流出するか、踏み止まるか、あるいは資金流入となるか、全ては短期資金の動きに委ねられていると言っても過言ではない。リーマン・ブラザーズの破綻、AIGの救済が決まってからの動きは、騰落率にこそ差はあれども方向性は似たようなものである。さて、週明けにも発表と期待のかかる金融安定化法を巡っては、その評価もまだ定まりづらい様子で、穀物相場も方向感を見出しづらくなっている。こうした状態でポジションを維持するのはやはり得策とは言えず、まずはどちらに動いても対応できるように身軽に構えておくことが先決である。

穀物のファンダメンタルズを確認しておく、①生育条件に関しては降霜リスクが生じているので買い方向、②海上運賃は下落が止まらず売り方向、③輸出はやや下振れしており売り方向、④対シカゴでは割安水準にあって買い方向とまちまちである。中長期的な展望は10月の需給報告を確認してからということになりそうだ。コーンではエタノール業者の採算悪化、大豆では圧碎高縮小による需要減退が懸念されているが、一方では価格低下による需要喚起も期待できる。米国产地ではこれから徐々に収穫に向かうが、現在のイールド予想に関してもまだ修正余地は残っていると考えるべきであろう。短期的には金融市場安定によってファンドが買ってくるかであり、中長期的には最新需給データを持ってフェアバリュー(適正価格)を模索する展開を見込んでおきたい。

◆添付されている『取引の重要事項』をかならずご確認ください。